

平成30年10月24日放送



## 採血について

土浦協同病院なめがた地域医療センター 検査部  
検査主任 上野 和幸

司会者：まず採血はどのような職種の方が行っているのですか？

上野：採血はおもに動脈採血と静脈採血に分けられ、動脈採血は医師が行います。健診や外来受診した際に多くの方が経験されている採血は静脈採血になり、この静脈採血については医療機関の規模にもよりますが国家資格を有する看護師や臨床検査技師が担当しています。

司会者：採血の際に腕を縛ったり、手を握ったりするのはどうしてですか？

上野：採血する際に駆血帯と呼ばれる器具で腕を縛ることを駆血と言います。駆血することにより静脈の血流が制限され血管が膨れ上がり採血部位を見やすくします。血管は場所や太さ、硬さや深さなど個人差がありますので、血管がよく浮き出る方もいれば、駆血してもなかなか見えない方もいたりします。そういった場合は採血に時間がかかってしまうこともありますのでご了承ください。

また手を握るのも駆血と同じような効果があります。ですが力を込めて何度も握ったり開いたりを繰り返し、血管を浮きたたせるようなことは一部の検査データに影響を及ぼすことが分かっていますのでやらないでください。

それと採血をされる際の服装ですが、出来るだけ袖まわりのきつい服装を避けて頂いたほうが良いと思います。採血のときは袖を肘のあたりまでまくっていただきますので、袖口がきつい服装の場合、採血が終わっても腕を駆血しているのと変わらないので、血液が漏れやすくなり服を汚してしまうことにもつながりますのでご注意ください。

司会者：採血前の消毒で皮膚が赤くなってしまう方がいると聞きましたが？

上野：そうですね。通常採血時の消毒は消毒用エタノールもしくはイソプロピルアルコールといったアルコール系の消毒薬を用いて採血部位を消毒します。アルコールに対して過敏な方は消毒したところが赤くなったり痒くなったりすることがありますので、そういった経験をされたことがある方は、アルコールを含まない別の消毒薬で消毒する方法もありますので採血の前にお気軽に申し出てください。

司会者：採血管で長さや色の違うのを見ますが何か違いはあるのでしょうか？

上野：はい。検査の種類によって採血管が異なります。また必要とする血液の量も違いますので採血スタッフが見た目に分かるように色や長さで区別されています。

採血管の中には、目的とする検査のために血液を素早く固まらせる薬剤が入ったものや、逆に血液を固まらせない薬剤が入っているものなどがあります。採血された方は見たことがあると思うのですが、採血スタッフが採血した後の採血管を混ぜているのはそれらの薬剤とよく混ぜるためです。

ですから多くの検査をやろうとすると必要とする採血管も多くなってしまいます。

司会者：採血管が多くなると採血される血液も増えてしまいますが大丈夫なのでしょうか？

上野：はい。人の体の中を循環している血液の量は体重の約13分の1と言われてしますので、体重65kgの方であれば約5000mlの血液が全身を循環していることになります。

検査で使用する採血管は少ないもので2ml、多いものでも6ml程度です。採血する本数にもよりますが、20ml前後の採血量で大体の検査は行えますので、全体の血液からするとごく少量になります。また血液は日々体内で作られていますので採血による影響はほぼ無いものと考えて頂いて大丈夫かと思えます。

司会者：映画やドラマでみる血液は赤いイメージですが、採血された血液は汚く見えませんか？

上野：はい、血液は赤いもので間違いはありません。ただそれは血液中に酸素が多く含まれた動脈の血液になります。

血液の色に関係しているのは血色素（ヘモグロビン）というもので、この血色素（ヘモグロビン）は酸素と結合して、全身の臓器や細胞に酸素を運ぶ役割をしています。この血液が動脈血で、鮮やかな赤色になっています。

通常採血している静脈血は、全身に酸素を届けた後の血液になりますので、赤いというより黒っぽい血液に見えます。

司会者：次の採血の時は朝食を抜いて病院に来てください。と言われるのはなぜでしょうか？

上野：はい。それは検査する項目の中に、食事によって検査値が変動してしまう項目がある場合に言われると思えます。

ご存知の方もいると思いますが、血糖や中性脂肪は食事の影響を受ける代表的な検査項目です。ですから糖尿病や脂質異常症などで受診されている方や健診や人間ドックを受けられる方は特に注意が必要になります。万が一指示されたのにもかかわらず食事をしてしまった場合は、採血や診察の際に『〇〇時頃に食事をしました。』と申告して頂いたほうがよろしいかと思います。

司会者：採血中みていると何もせずに採血容器に血液が入っていきますね？

上野：はい。現在どこの医療機関でも真空採血管というものを使い採血を行っていると思います。この容器は文字通り容器内が真空（陰圧）になっていて、血管に刺した採血器具と接合させると決まった量の血液が入るように作られています。先にも述べた採血管の中の薬剤の種類により決められた血液量でなければいけないものもありますので、採血者は量にも注意しながら採血していることがあります。

司会者：採血後は押さえてください。と言われますがどのくらいの時間押さえておけばいいのでしょうか？

上野：血液が止まるまでには個人差はありますが多少時間がかかりますので、採血してない反対側の指でしっかり5分程度圧迫して頂くのが良いと思います。この時決して揉んだりしてはいけません。予防注射などで揉むことはありますが、採血後に揉んでしまうと血液がにじみでてきて、採血したところが青くなってしまうことがあります。それと医師から処方されたお薬の中に、ワーファリンなどの血液をサラサラにする、固まりにくくする効果があるものを飲んでいまして、通常より血液が止まりにくいいためより長い時間押さえて頂く必要がある場合もありますので注意してください。

司会者：採血した日はお風呂に入っても大丈夫ですか？

上野：はい。傷口がふさがり血液がしっかり止まっていれば、入浴することは問題ありません。ただし患者さん自身の状況で、医師から入浴を控えるように指示されている場合は、その指示に従って入浴は控えてください。

司会者：最後に一言お願いします。

上野：針を刺して行う採血はどうしても痛みを伴いますので、採血をするとなると少なからず緊張される方がいると思います。極度の緊張は血管を見えにくくしてしまいますし、われわれ医療スタッフも極力痛くないようにと心がけています

ので、出来るだけリラックスして来ていただければと思います。